

平成 26 年 教育課程全体会議 2 議事録

開催日時	平成 26 年 11 月 28 日（金） 14 時 00 分～15 時 45 分
会 場	本校格技場
運営者の説明および出席者の意見交流の事項	
〈教育課程全体会議にあたり〉 ・ 前回の会議の結果を受けて、他校と比較しながら「今金高等養護学校として」どのようにしていきたいのかという観点を持ってほしい。 ・ 指導者の利点も大事だが、「生徒にとって何が一番良いのか」、「卒業後のイメージを持って」検討してほしい。 ・ 全職員で教育課程について考えてほしい。 【検討 1 単位時間の設定について】 <原案> ・ 現行の 45 分授業から 50 分授業の実施とする。 ・ 資料の裏面参照。以上から 50 分授業が実施可能である。休み時間の確保はできていない週時程表となっている。新篠津高等養護学校、札幌高等養護学校、中札内高等養護学校、雨竜高等養護学校、伊達高等養護学校の 5 校で実施している。 ・ 本来なら、運用の観点から考えなければならない。資料の裏面を参照すると、1 学年の水曜日だと 1 コマ続きの授業となっている。フルに 50 分授業を行うと、次の授業に支障をきたすことになる。そこで、45 分授業の実施、5 分の移動や更衣などの時間を確保するというような前後の授業での配慮が必要となってくる。これは、職員間で周知していかなければならないことになる。 <意見> ・ 移動や更衣の時間の確保ができるのかが心配である。（岩城 t） ・ 移動時間などが確保できるのであれば問題ないのではないか。（野呂 t） ・ 資料の週時程で特に問題がないのではないか。やれと言われたらやります。（鈴木貴 t） ・ 現行の 45 分授業がよいのではないか。移動や更衣の時間を別に設定してほしい。（工藤 t） ・ 教務（学校側職員）の勤務時間に変更になるのが、個人的には好ましくない。 生徒の登校をジャージ登校可にすると、朝の日生の時間を短縮できるのではないかと。 前任校で資料のような週時程で行っていたこともあり 50 分授業で支障ないと感じている。（祐川 t） ・ 正直、イメージがつかない。一度変更してしまうと、またすぐに変更できないため、慎重さも必要ではないか。（小松 t） ・ 移動や更衣の時間が確保できるのであれば問題ないのではないか。（中川 t） ・ 登校時間を早めると作業学習が校外に出る授業が行いやすくなるのではないかと。 運用上、45 分授業となると思うが、卒業生を見ているとチャイムを使った生活をしていることが多く感じる。1 回のチャイムで始業と終業を意味することになると生徒が混乱するのではないかと。 45 分間でチャイム（終業）、その 5 分後にチャイム（始業）をしたらいいのではないかと。（近藤和 t） ・ 中学校で 50 分授業を実施していることもあり、実質 45 分授業になってしまうが 50 分授業に設定したいと考えている。現状にすると、40 分授業で 5 分間の移動や更衣の時間の確保となってしまう。（金子 t）	

- ・現状の45分授業でよい。1校時目の授業に合わせた服装での登校でもよいのではないかな。
今後、作業服以外の服装での配膳となることも考えると、朝の更衣についても考え直してもよいのではないかな。(後藤 t)
- ・現状と暫定の時間割の日生に使っている時間は同じであるが、現在も不備を感じているということなのだろうか。そうであるならば、理由を聞かせてほしい。(金子 t)
- ・50分授業に対して、生徒や教員が対応できるのか。(後藤 t)
- ・前後の授業によって、早めに終了することや考慮した授業内容にすると教えた中身を減らしている。
チャイムがあればメリハリはつくが、作業学習などを行っているときにチャイムが鳴ると困惑するのではないかな。(山口 t)
- ・清掃時間が曜日毎に異なっていることが気になる。50分授業実施の際に教員側のおさえが必要となるが、本当におさえてもらえるのだろうか。50分間フルに活用した授業をしてしまうことがあり得るのではないかな。(初山 t)
- ・移動時間などを含めた50分授業であればよい。50分授業になると、更に細やかな指導ができるのではないかな。(石黒 t)
- ・50分授業を実施し、教員側で移動時間などを確保すればよいのではないかな。チャイムに関しては、作業学習中に鳴ったとしても、それで集中力が切れるようであれば社会に出ても困る。チャイムがある・ないに関わらず集中できるようになってほしい。(田中 t)
- ・50分間フルに授業を行ってしまうことに心配を感じる。教員側でしっかりと時間を守ることが大切ではないかな。(佐々木 t)
- ・50分授業がよいと言われているが、45分授業でよいと感じている。生徒の実態を考えると、明確にした移動や更衣の時間を設定した方がよいのではないかな。50分間にそのような時間が含まれてしまうと、生徒が動きにくいのではないかな。(泉谷 t)
- ・給食時間や日生の時間などの支障がなければ50分授業でもよいのではないかな。チャイムを鳴らすことで1コマずつ行う授業だとけじめをつけられてよいのではないかな。(高橋 t)
- ・50分授業を実施しなければいけないのであれば、始業はチャイムを鳴らすと統一すればよいのではないかな。チャイムが鳴って動くのではなく、時間割を考えて時計を見て判断できるようにならなければいけないのではないかな。(山田 t)
- ・50分授業の実施でよい。寄宿舎の日課と照らし合わせて、落ち着かないまま登校することにならないようにした方がよいのではないかな。(小林睦 t)
- ・50分授業を実施することで生徒に成果が出るのであればよいのではないかな。(出村 t)
- ・45分授業でよい。始業のチャイムはあった方がよい。(藤倉 t)
- ・職員間でしっかりと時間をおさえるような流れになっているが、現在でもしっかりとおさえられていないこと、新任者が来ても理解できるのだろうか。(林谷 t)
- ・朝の落ち着かない日課で、消化不良のまま登校するような生徒が増えないか心配である。(橘 t)
- ・給食時間が遅れている現状から本当に暫定の日課でできるのかが疑問である。(吉本 t)
- ・50分授業の実施でよい。暫定の週時程表での体力づくりで50分間を確保されているが、現状では確保されている時間いっぱい行っていないため、体力づくりで50分間を確保しなくてもよいのではないかな。(青山 t)
- ・現状では体力づくりの中で更衣の時間を含めてできている。体力づくりが終了後の時間は日生の時間として届け出している。(金子 t)

- ・1コマの授業を効果的に行うためには50分授業であった方がよい。(松本 t)
- ・週1コマの授業だと定着ができていない現状がある。50分授業でよいのではないか。(阿部 t)

<まとめ>

- ・50分授業の運用だと45分でチャイムを鳴らして5分間で移動などの時間に充てるという形になることが考えられる。45分授業のままでいくと、40分でチャイムを鳴らして5分間で移動などの時間に充てるのか、もしくは現状のように45分間連続した週時程でいくのか検討が必要となる。(金子 t)
- ・体力づくりでは、内容の精査が必要となってくるのではないか。現状では、35分間ぐらいの時間を充てている。カウントの仕方を小平高等養護学校のようにするべきなのか検討が必要となる。(金子 t)
- ・最終的にはチャイムの有無に関わらず、生徒自身が動けるようにしていかなければならない。(佐藤教頭)

【検討2 教科学習（国語・数学）について】

<原案>

- ・現状の週1コマから週2コマに増やす。
- ・週1コマに毎朝または帰りに10～15分間の時間を確保して継続的な学習時間を設定する。継続的な学習時間を設定すると、体力づくりの運用方法を変更することになる。

<意見>

- ・教科学習の担当教員を中心に意見を述べてもらいたい。(教頭)
- ・無いよりはある方がいいのかもしれないが、朝などの学習時間を設定すると中途半端な内容しかできない。(山田 t)
- ・朝などの学習時間だと、学級や個人によって能力や実態も異なり過ぎる。問題を解いて解答までできるかが疑問である。また、教材を用意する教員の労力が大変である。むしろ、週2コマに増やす、特別日課の中で教科の授業時間を確保してほしい。(山口 t)
- ・朝などの学習時間で問題が解けるのか、それをする中で生徒の喜びがあるのだろうか。週2コマの方が効果的なのではないか。(田中 t)
- ・習熟度別の授業展開を行っているが、朝などの学習時間では習熟度で行えない。それよりは、週2コマに設定し、1時間目は基礎時間、2時間目は発展的な時間と分けて行った方がよいのではないか。(工藤 t)
- ・繰り返しの学習展開を行っているが、週2コマだと更に細やかな基礎から発展へと繰り返しの学習が行えるのではないか。(阿部 t)
- ・学校行事などから変更があり1カ月ぐらいのあいた時間ができたことがあった。週2コマにして定着するためには、担当教員の力量も必要になってくるのではないか。(野呂 t)
- ・現状だと単発で終了してしまうことや担当教員によることもある。週2コマよりも週1コマを充実させた方がよいのではないか。朝などの学習時間だと、新しいことを学習することは難しいが、繰り返しの学習はできる。(初山 t)
- ・朝などの学習時間は、何らかの形で活用できたらいいと考えている。朝の読書の時間などで活用できたらよい。(教頭)
- ・時数を増やせば良くなるのは間違いなのではないか。個々に応じた朝の学習時間は難しいように感じる。教材の準備など担任裁量に任せられるのは失敗に終わるのではないか。内容の精査、系統的に行うことが大切なのではないか。(渡邊 t)

【検討3 情報、職業（キャリア）の教科新設について】

<原案>

- ・情報は、授業の一環として行う。ハード面、ソフト面などを整備する。暫定的に3年生のみ実施したい。その反省を踏まえて次年度の検討材料とする。内容はワードやエクセルなどの技術面よりは情報リテラシーを重視した内容とする。
- ・職業は、生活単元学習の積み重ねがあるため棲み分けが必要。新2学年は、1年次の計画や結果を踏まえて行う。新3学年は、2年間の流れもあるので生活単元学習の中で取り組む。
- ・何が何でも実施するというわけではない。
- ・進路担当教員から、卒業してから困らない情報リテラシー、職業に特化することではないがコミュニケーション能力は必要であると聞いている。翌年1月16日の職員会議で進路担当から同様な話がある。

<意見>

- ・情報は必要だと感じている。(教頭)
- ・職業に関しては生活単元学習との関係性があるので、生活単元学習の担当教員との綿密な打ち合わせが必要になってくるのではないかと。(岩城 t)
- ・職業については、今までのやり方だと生活単元学習の中に組み込まれていたが、帯の時間帯でできると意識を持ち続けることができるのではないかと。(佐々木 t)
- ・総合に進路のことはいいが、指導者が限られる。3年間、生徒の様子を見てみないと分からない。(初山 t)
- ・総合という授業の中でしっかりと確保できることはよいが、時と場合によっては生活単元学習の時間に振り替えられることがあるため、計画的に行うことが大切になってくるのではないかと。(山口 t)
- ・情報の授業を指導するのは学年になるのか。現在、情報免許保持者がいるから年間指導計画を立ててもらえるが、免許保持者が異動して誰もいなくなってしまった場合はどうなるのか。維持できるのか。保護者や進路担当者から求められていることもあり、やらないということにはならないと思うが、生活単元学習の中で十分に教えることができるのではないかと。専門的な知識がある教員が計画を立案してもらるのであれば、できる範囲では指導できると思う。数年後を見越して計画的に行うべきである。(渡邊 t)
- ・難しい部分があると思う。授業に組み込まれているなら、誰が指導者にあってもやらなければならない。教科になるのであれば、しっかりと計画的に行わなければいけない。教育課程の見直しの時期かもしれないが、職業については現在の1学年の様子(残り2年間)を見た方がいいのではないかと。(鈴木貴 t)
- ・情報については、技術面、情報リテラシーなどの線引きをしっかりと行うべきではないかと。現在の配属クラスや卒業生(担当クラス)の生徒を見ても、生活単元学習やLHRの中でも対応できるのではないかと。全生徒にとって必要なことなのか疑問を感じる。選択制を導入してもよいのではないかと。例えば、3学年を数学1コマ、情報1コマみたいにしてもよいのではないかと。キャリア教育は必要であるが、情報の導入については迷いもある。
- ・携帯電話などの情報機器の扱い方を知るべきではないかと。(後藤 t)
- ・教科として必要となると、3年間必要だとなるとどうなるのか。(祐川 t)
- ・教科指導が主になると生活単元学習が削られる。美深高等養護学校のように、社会科と理科が合同になった「くらし」の授業のように位置づけされているのであれば生活単元学習でよい。通年でやらなければならないのであれば、毎週必要であり教科として必要になってくるのではないかと。見切り発車や実施

して難しかったからやめるでは行えない。生活単元学習の運用で変更できるのであれば、性の指導などに特化できればよい。段階を踏むべきところで踏まないといけない。その中で、折れる部分と折れない部分がでてくる。3年間必要であれば、作業学習や体力づくりも削減対象になってくる。(金子 t)

- ・平成27年度 北海道立特別支援学校高等部(知的障害)生徒募集要領を参照。「障害の程度が比較的軽い学科(障害の程度は比較的重い学科)では、各学科の特色を生かした作業学習を中心に行うとともに、体力づくりにも力を入れた指導を行う。」と記載されている。作業学習を中心とし、体力づくりにも力を入れた指導が必要となる。ただ走るのではなく、エアロビやサーキットなどを上手く発展させることが大切になってくる。働くために必要な体力とは何なのかということ在全職員の意識が大切なのではない。社会状況を考慮し、クローズアップしながらやっていくことが必要になる。(金子 t)
- ・情報は技術面のイメージが強い印象がある。情報リテラシーの部分は道徳のイメージがある。(林谷 t)
- ・1コマというと年間35時間の時数を意味しているため、中学校の技術家庭科の情報に近いものをイメージとして持っている。進路担当者がどのようなものを求めているのか見えてこない。(田中 t)
- ・情報リテラシーは必要だと思うが、年間35時間でどのように教えていけばいいのか。卒業生が困っているということは、今までの指導に不足していた部分があったということになる。実施することになればしっかりと行わなければならない。(野呂 t)
- ・なぜ情報を3学年で実施するのが疑問である。3学年での実施になるとその効果が感じられないのではない。むしろ見切り発車になってしまう部分があるかもしれないが他校のように1学年で実施した方が様々な面が見られていいのではない。ただし、中身や内容をはっきりしないと何とも言えない。(渡邊 t)
- ・自分の担当クラスの生徒が、企業から出された資料を見て実際に資料を作成できるぐらいの技量、パンフレットの作成やレジ打ちぐらいのできるまでの技術を身につけてほしいと言われたことがある。(岩城 t)

【総括】

- ・検討1と2に関しては、方向性が見えてきた。
- ・検討3の情報や職業に関してはまだ議論が必要である。
- ・次回の全体会議は12月12日(金)に実施。今回の内容とプラスとして検討したいことがある。
- ・多くの職員で意見を述べることで様々な観点が生まれてくる。遠慮せず意見や考えを述べてほしい。

上記のとおり会議を開催した。

平成26年 11月 28日

北海道今金高等養護学校長 高嶋 利次郎 印